

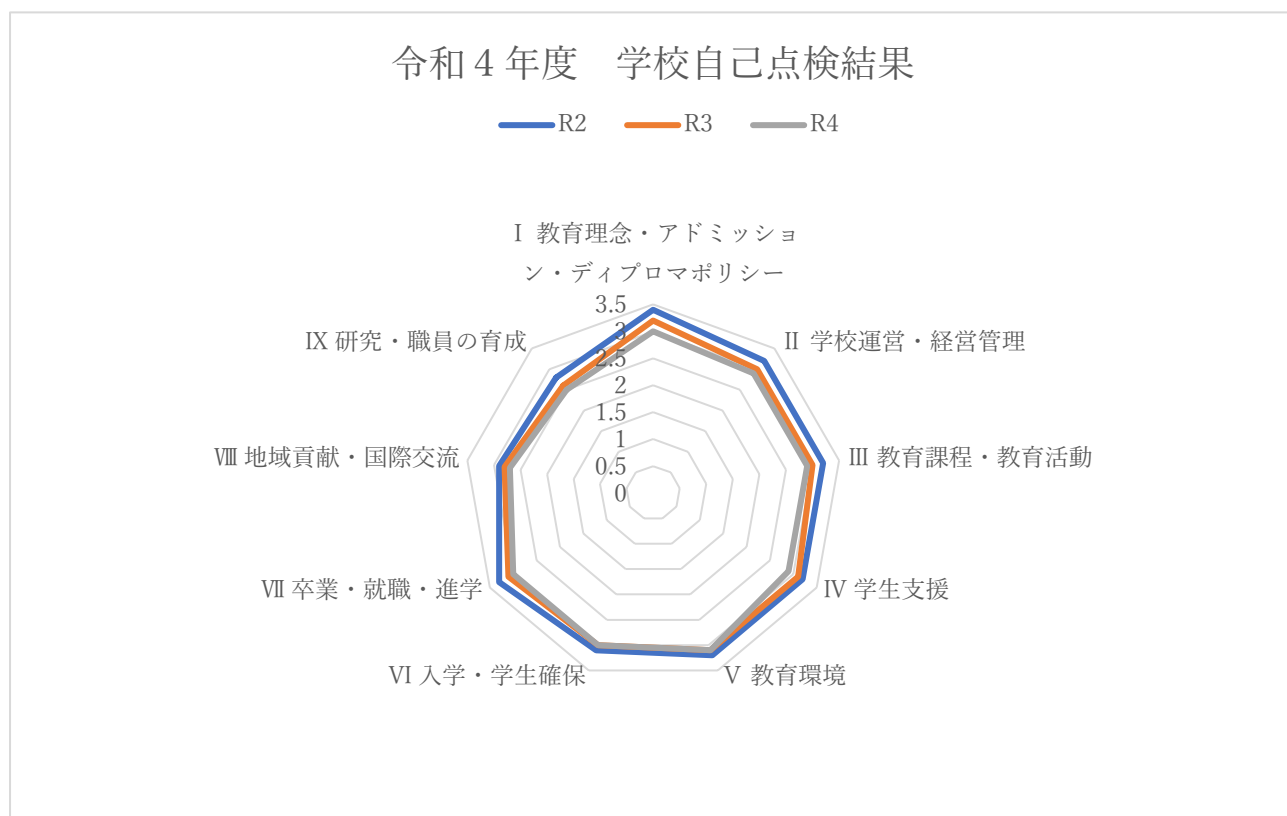
## 令和4年度 学校自己点検結果

「看護師養成所の自己点検・自己評価指針」を基に検討した内容で学校の自己点検・自己評価を行い学校運営の改善に努めております。自己評価結果は以下の通りです。

評価のカテゴリーを9領域、50評価項目とし、4段階評価（4：よく当てはまる 3：大体当てはまる 2：あまり当てはまらない 1：全く当てはまらない）にて教職員による自己評価を実施しました。

- I. 教育理念・アドミッションポリシー・ディプロマポリシー（3項目）
- II. 学校運営・経営管理（11項目）
- III. 教育課程・教育活動（12項目）
- IV. 学生支援（5項目）
- V. 教育環境（4項目）
- VI. 入学・学生確保（5項目）
- VII. 卒業・就職・進学（3項目）
- VIII. 地域貢献・国際交流（2項目）
- IX. 研究・職員の育成（5項目）

### アンケート結果



評価項目	結果	実施内容および課題
I. 教育理念・アドミッションポリシー ディプロマポリシーに関する事項	3.4	令和4年度のカリキュラム改正に伴い、設置主体が神戸市民間病院協会であることを基盤とした内容で見直し、合わせてアドミッションポリシー・ディプロマポリシーを明示しました。今後その内容が学生・教職員に浸透し実践できるようにしていくとともに、学生や教員にとって教育の指針となるよう説明を行い周知できるようにしていきます。
II. 学校運営・経営管理に関する事項	2.9	年度初めに提示される学校運営方針に学校運営に関する事項を明記し、口頭での説明を実施、年度末には運営等に関しての評価を行い文書にて提示し、周知できるよう取り組みました。
III. 教育課程・教育活動に関する事項	2.9	令和4年度の新カリキュラム改正に伴い、教育課程における単元構成について検討し、授業内容に関しては各回の内容を明示し学生が内容理解しやすいように工夫しました。ほぼ対面授業を行いICT活用等による授業運営を行いました。科目履修の順序性を考え効果的な教育活動が行えるよう取り組んでいきます。実習に関しては、適宜状況に合わせ調整を行い実施できました。
IV. 学生支援に関する事項	2.9	ピアサポート体制による学生支援やキャリア室との協力による学生支援やICT活用による支援を行いました。学生の課題に対応しながら効果的な学習支援に取り組んでいきます。また学生の状況に合わせ適宜保護者と協力・連携を図り支援していきます。
V. 教育環境に関する事項	3.1	教育環境としての施設・設備・教材の整備を年次ごとの計画を立て実施、また必要に応じ適宜整備を実施しています。令和4年度で全教室の天井吊り下げ型プロジェクター設置が終了しました。今後も計画的に継続し教育環境の整備に努めます。
VI. 入学・学生確保に関する事項	3	進学説明会への参加や後期から随時学校見学等の実施とともにWebを活用し願書のダウンロードや入試合格発表など時代に合わせ方法の変更等を行いました。今後も学生確保のため積極的な広報活動・学校見学会等を行っていきます。
VII. 卒業・就職・進学に関する事項	3	就職への支援、民間病院への就職率を高めるための努力をしています。今後も教育理念に基づき民間病院及び神戸市会員病院への就職率の向上を目指し支援継続していきます。
VIII. 地域貢献・国際交流に関する事項	2.7	地域社会への貢献に関してはコロナ禍で実施できなかったが、次年度は感染状況を見ながら地域活動に貢献できることを考え計画的に取り組んでいきます。
IX. 研究・職員の育成に関する事項	2.5	感染症対策が優先され、学会等への参加が十分でなかったが教育力向上のためにも今後できるだけ参加し教育に反映させ、教育力の向上を目指します。

## 学校関係者評価

<実施日> 令和5年6月8日(木) 14:30~15:30

<場所> 本校8F 第1会議室

<参加者> 神戸市民間病院協会：会長1名 副会長2名

学校：学校長・顧問・事務部長・事務次長・教務主任

<方法>

学校評価結果について学校より説明後、評価内容及び結果についての質疑及び意見交換を行った。

<質疑内容及び意見等>

### ①コロナ禍での実習の実施状況について

2020年度・2021年度と比較すると、年々、病院での実習が可能となり令和4年度においては予定していた実習の95%は臨地で実習を行うことができた。病院によって制限の状況が異なり対応・調整が難しいこともあったができるだけ臨地で経験させたい旨を伝えることが多くなった。やはり臨地での実習経験は学生の知識の定着や考える力へと結びついており、国家試験の問題解答にも役立っており実習の重要性について改めて実感した。

次年度、感染状況については不明瞭であるが、学生の教育の質は常に担保できるよう今後も務めていく必要がある。

### ②看護師国家試験対策について

看護師国家試験の合格率98.4%とよい結果であった。国家試験対策として、外部講師や業者による補習講義や内部教員による補習講義の実施と、問題集の解答を計画的に実施したうえで適宜試験を実施、合格ラインの得点が取れるまで繰り返し行うことで力がついてきたようである。

1年次から学習習慣をつけ、学習力・成績向上につながるよう支援を継続し全員合格につながるようにしていくとよい。

### ③就職状況について

就職率は100%（国家試験合格者）でよいといえるが、民間病院への就職率をみると例年に比べ下がっておりあまり良い結果とはいえない。今回、県内の民間病院への就職率が低くなった理由として、家庭の事情により県外（関東・四国）への就職者や民間病院にはない分野への就職希望者がいたことがあげられる。

就職に関しては学生に本校の趣旨について説明し民間病院への就職を推奨している中、このような結果となったが今後も引き続き民間病院にできるだけ多くの学生が就職するよう関わっていく。卒後支援としては、民間病院以外に就職した卒業生についても情報収集しながら就業継続できるよう支援をしていく。

#### ④受験生の応募状況について

年々受験生が減少していること、特に社会人経験者の受験生が減少しているが、その理由として考えられることはコロナに関する医療現場の報道の影響や企業採用の増加によるものではないか。医療現場の看護師不足に対応すべく社会人経験者を看護師として育成することは専門学校として大きな意義があると考え。今後、社会において看護に興味を持てるような取組等が行われることや、学校独自に学校アピールをしていく取り組みが必要である。留学生の受験に関しては、現在留学生受け入れが可能な体制が整っていないため受け入れておらず、現段階では受け入れ体制を整えることは難しい状況である。

#### <まとめ>

受験生確保に関しては大きな課題と言える。3年前までは社会人経験者の入学者が6~7割であったのが、現在は逆転している。社会人経験者の受験者数にもよるが、今後18歳人口の受験生が減少していくことを考えると積極的に社会人経験のある看護師の育成を目指し社会人の門戸をもっと広げていくことが必要である。

留学生受け入れについての現状として受け入れ体制が整っていないため行っていないが、今後は状況を見ながら留学生の受け入れについても視野に入れていく必要があると考える。

コロナの感染状況も前年度に比べると落ち着いたこともあるが、感染防止対策等を含め学校運営は概ねできていた。臨地実習の調整もできほぼ臨地での実習ができたこと、学校内での感染拡大が起きなかったことは良かったといえる。コロナの分類が5月以降5類に変更されたが、今後も感染状況に十分に注意し状況を見ながらの学校運営が必要である。